学校通信 4-5	かけはし	教育目標	○学び合う子 ○つながり、支え合う子 ○たくましい子	武蔵村山市立 第九小学校 校長　吉成かおる 令和4年9月1日

当たり前のことを徹底する

校長　吉成かおる

夏休みの間は静まりかえっていた学校に、子供たちの活気ある姿が戻ってきました。

いよいよ２学期の始まりです。「２学期はこれを頑張ろう」とめあてをもっている子供が多いと思いますが、その際、ぜひ、考えてほしいことがあります。

私は以前、秋田県にある小学校に、教育視察に行ったことがあります。秋田県は、全国の学力調査で、何度も都道府県別順位第１位の結果を出している県ですが、その中でも特に学力が高いと言われている小学校でした。県の中心部から離れた奥羽山脈のふもとに位置し、村に塾が一つしかないような学校の子供たちが、どうして学力が高いのか、校内の子供の様子を見ながらその秘密を探ってみると、次の３つのことが分かったのです。

まず、第一に「子供たちが授業に集中している」ということです。おしゃべりをしたり、よそ見をしたり、いたずら書きをしている子供はいませんでした。全員が一生懸命、先生や友達の話を聞き、考えながら学習に取り組んでいました。

第二に「生活がきちんとしている」ということです。どの子供も身の回りを整理整頓し、必要な学習道具をいつでも使えるように準備していました。また、次にやることを考え、時間に遅れずに行動するので、落ち着いて学習活動に取り組めていました。また、言葉や作業が丁寧で確実でした。

第三に「家庭学習の方法が充実している」ということです。学力調査の質問項目の中で、他の学校より大きく抜きん出ていたのが「家で学校の復習をする・家でテストの間違えた問題を勉強する」という２つでした。「分からないことをそのままにしない」ということが、学習の理解につながっていました。

学力が高い学校は、さぞ先取り学習や難しい問題集を解くのに多くの時間を費やしているのかと思いきや、そういう特別なことはせず、教科書の内容をしっかり学習しているだけでした。

この学校の先生が、「学力向上に特効薬はありません。この村ではきちんとあいさつをするとか、人の話をしっかり聞くとか、当たり前のことが当たり前にできる子供を育てようとしているだけです。学校も家庭も地域も、当たり前のことを、皆で徹底してやっています。」とおっしゃっていました。ここにすべての鍵があると感じました。

九小の子供たちも、あいさつができる、掃除をきちんと行う、時間に遅れずに集合するなど、秋田県の小学校に通じるところがたくさんあります。縦割り班活動をとおして、下級生を思いやる心やリーダーシップを取る力も付けています。このよさを伸ばしながら、さらに、相手の話を集中して聞くことや、学習で分からないところをそのままにしないこと等も指導を継続してまいります。御家庭でも、生活の中で当たり前と思えることを子供たちが意識して行えるよう、支援をしていただければと思います。今後も、保護者や地域の皆様と一緒に取り組んでいくことで、子供たちのよりよい成長につなげたいと考えております。本校の教育活動に対する変わらずの御理解と御協力をお願いいたします。